

科目名	宗教哲学特講	担当者	イシハマ 石浜 ヒロミチ 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>人類の歴史とともに存続してきた宗教，それは私たちの心の支えや平安のために不可欠なものであった。しかし反面，宗教の超俗的側面ゆえに，ともすれば狂信や迷信，あるいは為政者の支配の道具となり暴走したことも多々あった。そこで本科目では宗教の本質的な在り方とは何かという視点をもとに，宗教の持つ力と倫理的危うさ，そして今日世界各地で起こっている宗教的な諸事件を自ら積極的に調べることで，宗教の本来の姿を自ら研究・発見し説明できるようにしたい。そしてそれをベースとして今日の宗教的諸問題を客観的に判断し社会に発信できる能力を養う。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 学習者は宗教の本質の理解を通して，世界の諸宗教とその排他性ゆえに生じる諸問題を正確に理解し，あるべき宗教の姿と多様な宗教の固有の存在価値を論理的に提示することができる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 学習者が宗教のあるべき姿を理解することで既成の宗教を客観的に評価できるようになるために，宗教本質論と同時に宗教多元論の立場に立って，世界の多くの宗教の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実起こっている諸問題を理解できるようにし，さらにその解決を目指すよう促す。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 学習者はこれまでの一宗教のみの学修だけではなく，日本固有の宗教である神道そして仏教，キリスト教，イスラム教，新宗教をも視野に入れ，それらの経典や実践の研究，関連する諸事件分析にも同等の時間を割き幅広く学ぶことに心がける。1つのレポート作成にあたり，基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上，manaba folio への提出・再提出のやりとりに20時間以上が目安。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 学習者は多様な宗教とそのから生じる諸問題を理解できるようにするために，それらの経典等を研究すると同時に，実践的に各宗教の現実の営みに関わり，宗教の生きた姿を体得する。レポート作成に際して，manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略（LS）】 学習者はテキストや経典の研究と同時に，可能な限り各宗教の諸行事，修行体験，講演会等に積極的に参加すること，またそこから生じる諸問題を分析することで，宗教の生きた姿，その内容や方法をできる限り理解すること，さらに諸問題の解決に心がける。よってそれらを批判的に考察したレポートを作成提出することをも評価の対象としたい。作成時の疑問に関しては随時 manaba folio を使って担当者に質問すること。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)は7月末，課題(2)は8月末を目安に提出する。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出すること。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)は11月中旬，課題(2)は12月中旬を目安に提出する。いずれの課題も次年の1月上旬までに最終稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し，課題ごおりのレポートとしての的確に書かれていること
	平常評価	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し，それに沿った修正となっていること
履修者への要望	<p>哲学や宗教の書物はその思想的な理解だけではなく実践的面においても，自らの思索を深め，広い視野や客観性を高めるうえでも有効なので，テキスト内容を一字一句，しっかりと吟味しながら読解し，実践することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ジャン・グロンダン 教材名： 『宗教哲学』（白水社・文庫クセジュ，2015年）ISBN:10-4560509999 1296円
	本書は宗教の本質を伝統的な理性と信仰という側面から、かつ古代ギリシャから現代までの歴史的な考察により、キリスト教的背景を持ちながらも宗教にありがちか一面的な見方を脱却し、宗教の普遍性と多元論的な見方の可能性を内容とする。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書，2冊，2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円＋税 ジョン・ヒック『神は多くの名前をもつ』（岩波書店，1986年）ISBN:4-00-000314-3 1900円＋税 波多野精一『宗教哲学序論・宗教哲学』（岩波文庫，2012年）ISBN:978-4-00-331453-1 1260円＋税
履修上のポイント	哲学や宗教の書物は用語の特殊性もありわかりにくいものも多いが、その都度こまめに思想系の辞書を引いて確認することが望ましい。またテキストについてもできれば哲学的な背景が必要であるので、上記のような哲学史の入門書で基礎知識を得ておくと理解が容易となる。
レポート課題 1	テキスト第1章から第3章を読み、宗教の本質とは何かを述べなさい。 <b>留意点：</b> 上記の参考図書（ヒック、波多野）と比較することによって、テキストの立ち位置や内容がより明確となる。
レポート課題 2	①テキスト4，5章を要約し哲学と宗教の関わりを述べなさい。②またはテキスト6，7章を要約し、どのように宗教が哲学に移行していったかを述べなさい。（①②どちらか一方のみ選択） <b>留意点：</b> 思想史的背景を考えつつまとめることで、哲学と宗教の関係・内容がより理解できる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 石浜弘道 教材名： 『霊性の宗教』（北樹出版，2010年）ISBN:978-4-77-930249-7 2500円＋税
	宗教に基づく独善主義や狂信、迷信による事件が起こる昨今において、宗教の多様性、寛容性、普遍性を説くスピリチュアリティ・霊性の宗教が注目されている。本書はこの霊性をいち早く語ったキリスト教神学者 P.ティリッヒを通して、霊性の宗教という観点から諸宗教がその本来の在り方を逸脱したことから起きた諸問題の解決への道を内容とする。
参考図書	鎌田東二『神道のスピリチュアリティ』（作品社，2003年）ISBN:978-4-87-893593-0 1900円＋税 阿部美哉『現代宗教の反近代性』（玉川大学出版部，1996年）ISBN:4-472-09881-4C3014 3456円
履修上のポイント	テキストを熟読すると同時に、宗教に内在するスピリチュアリティを中心に考える場合、宗教体験（ティリッヒという霊性の現臨）が重要なものとなるゆえ、各自宗教的世界に触れることが望ましい。たとえば、各種の宗教行事への参加や宗教芸術の鑑賞等。
レポート課題 1	スピリチュアリティとは何か、またそれはどのような領域に働き、どのような意味、能力があり、どのような影響を私たちに与えるかを、宗教の普遍性を考慮しつつ述べなさい。その際可能であれば自分の宗教体験を合わせて述べること。 <b>留意点：</b> テキスト1章を中心によく読むこと
レポート課題 2	①宗教の独善と排他性から生じる事件を克服するために、その多様性を尊重しつつ、その共存を可能とするスピリチュアリティの働き・特徴を述べなさい。②あるいはこれまでに起った宗教に関する事件を1つ紹介・分析し、その事件の内容と問題点をスピリチュアリティの視点から述べなさい。（①②どちらか一方のみ選択） <b>留意点：</b> テキスト3章を中心によく読むこと